

3.1.4 地形及び地質の状況

1. 地形の状況

対象事業実施区域及びその周囲における地形の状況として、標高図を図 3.1-14、地形分類図を図 3.1-15 に示す。

対象事業実施区域及びその周囲は主に中起伏火山地及び山頂山腹平坦面等の火山地から形成されている。西側には丘陵が広がっており、一部、谷底平野及び崖錐となっている。

2. 地質の状況

対象事業実施区域及びその周囲における表層地質の状況は、図 3.1-16 のとおりである。

対象事業実施区域及びその周囲は主に「多賀火山安山岩・玄武岩類」及び「湯河原火山安山岩類」等の火山岩類が分布しており、一部「富士火山玄武岩火山礫・火山灰」等の火山性未固結堆積物となっている。盆地には、泥層及び泥砂礫互層も分布している。

対象事業実施区域におけるボーリング調査結果は表 3.1-23 とおりである。

対象事業実施区域の斜面地形の地層構成は、上位から表土層、ローム層、火山砕屑物層、多賀火山噴出物層に大別される。

表 3.1-23 対象事業実施区域のボーリング調査結果

地質年代	地層名	分布深度	層相	測定N値(平均値)		
第四期	完新世	表土・崖錐・河床堆積物層	0.00 ～ 0.50	・有機質粘性土（黒ボク） ・ローム混じり礫、 ・転石	50/3 (-)	
		ローム層	0.50 ～ 11.25	・上層部はパウダー状で軟らかい ・下層部は軽石粒が混入し半固結 ・φ60～100mm大の礫・転石が混入	1～6 (3.3)	
	更新世	火山砕屑物層-1	11.25 ～ 16.80	・不均質で凝灰質砂と火山灰質粘性土の混合土 ・砂質土が優勢 ・下層部にφ10～20cm大の転石が点在	3～14 (9.1)	
			16.80 ～ 19.65	・不均質な凝灰質砂と火山灰質粘性土の混合土で粘性土が優勢 ・風化礫や最大100cm大の転石が点在	1～50 (18.5)	
		火山砕屑物層-3	19.65 ～ 22.80	・凝灰質砂主体で粘性を帯びる、 ・φ10～30cm（最大30cm）大の転石が点在	27～50 (41.4)	
			22.80 ～ 26.60	・礫混じり砂質粘土、 ・自破碎安山岩の様相、 ・固結性は低く脆い	14～22 (18.8)	
		多賀火山噴出物層	風化火山礫凝灰岩層	26.60 ～ 27.50	・膠結性の低い火山礫凝灰岩・凝灰角礫岩・風化安山岩、 ・土砂化が進行し、節理不明瞭でRQDが低い、 ・岩級区分はD級	13～50 (36.9)
				27.50 ～ 31.00	・高い膠結性を有す火山礫凝灰岩・凝灰角礫岩 ・岩級区分はCL級	50～300 (100.3)
	安山岩層		31.00 ～ 33.45	・硬質な安山岩と自破碎状の安山岩の互層・ 節理面に風化物質を挟む、 ・岩級区分はCM～CL級	50～300 (204.3)	

出典：「(仮称) 函南町太陽光発電事業地質調査報告書」(株式会社ブルーキャピタルマネジメント、有限会社 G. T. E、平成30年7月)